



糸魚川市橋立金山産自然金の発見について

1 要点

新潟県内で初めて、橋立金山産の自然金を発見

最大9 mmに達する自然金で、標本価値が高い

11月28日～1月31日までフォッサマグナミュージアムのふるさと展示室で特別展示し、その後は第2展示室に展示する。

2 橋立金山の概要

新潟県糸魚川市の青海川上流にあった橋立金山は、越後の戦国大名、上杉謙信が採掘していたと伝えられる金山であり、総産金量が約1.2トンの比較的小規模な金山です。最盛期の1898(明治31)年～1905(明治38)年には、846kgの金を生産し、約1,000人の鉱山関係者が働いていました。めまぐるしく変わった鉱業権者の中には、重機メーカーのコマツの創始者であり、早稲田大学理工学部の創設に貢献した竹内明太郎(吉田茂の兄)もいます。

1903(明治36)年には、鉱山のための水力発電所が建設され、糸魚川で最初に電灯がともった場所でしたが、産金量の激減と坑内の出水により1906(明治39)年に閉山しています。青海川上流には、鉱山事務所・精錬所の石垣や石臼などがあり、ジオサイトとして見学会がおこなわれてきました。

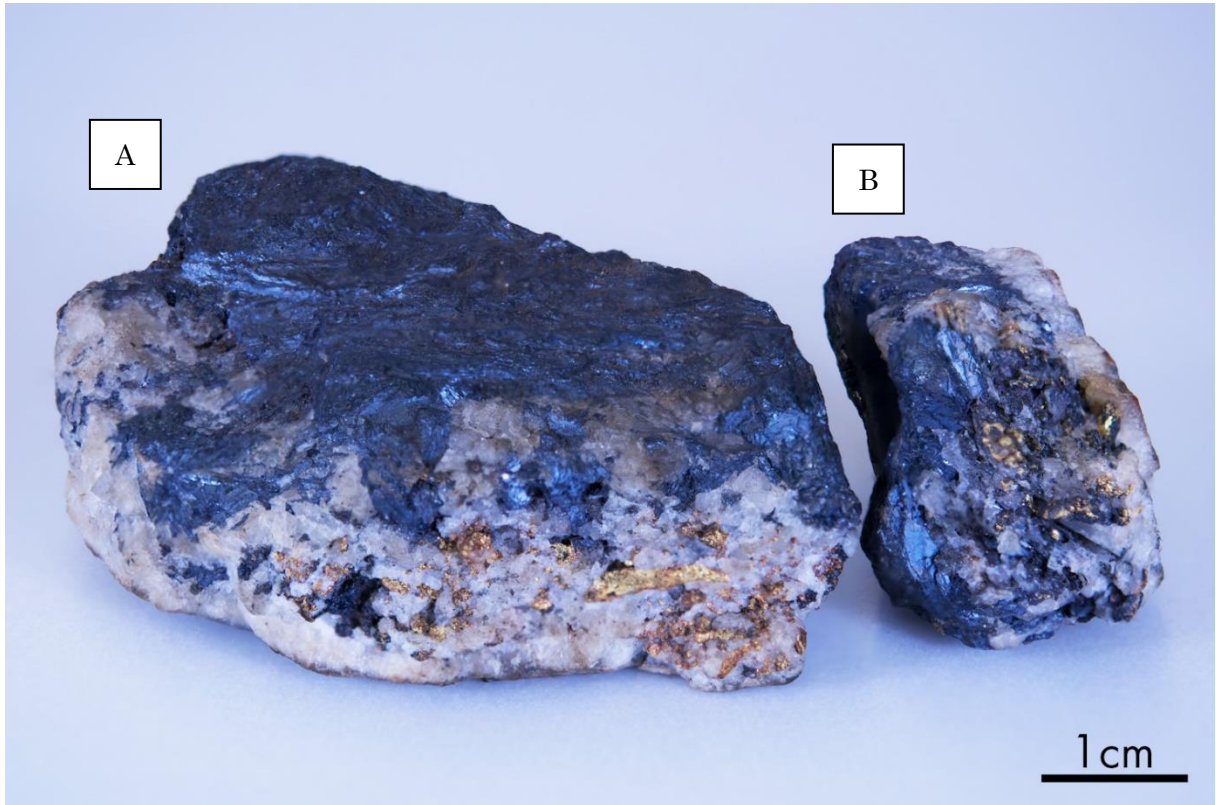
トロッコの車輪やつぼ、薬品瓶などがフォッサマグナミュージアムで展示されています。橋立金山産の自然金は、国内で5カ所(東大、京大、東北大、国立科学博物館、産総研地質標本館)にのみ、保管されていました。

3 今回の発見の経緯と意義

平成29年11月7日に糸魚川市上早川出身の故恩田寛^{おんだひろし}さんのご親族が、橋立金山の自然金と伝わる金色の鉱物を含む岩石をフォッサマグナミュージアムに寄贈されました。恩田寛さんのお父様である恩田伊佐雄^{おんたいさお}さんは、戦前に電気化学工業(現デンカ株式会社)に勤務し、その後この金鉱石を入手したそうです。橋立金山産の自然金は、前述のように国内5カ所で保管されていますが、新潟県内での発見は、これが初めてとなります。前述の5施設では一般には公開されておらず、フォッサマグナミュージアムでの展示が国内唯一の常設展示となります。

4 発見された自然金

今回発見された自然金は、大小2個で、いずれも白色の石英中に金色の粒子（0.5～9 mm）が見られ、フォッサマグナミュージアムでの分析の結果、銀を約10%含む自然金と同定されました。また、黒色の鉱物も分析の結果、輝安鉱(Sb_2S_3 アンチモンと硫黄の鉱物)であることがわかりました。



標本 A：重さが 95.8g あり、最大で長さ約 9mm、幅約 2mm の自然金の結晶が石英中に多数観察できます。黒色の輝安鉱は、長さ約 2cm の長柱状の結晶です。

標本 B：重さが 27.8g あり、数ミリの自然金の結晶が石英中に多数見られます。黒色の鉱物は輝安鉱であり、長さ約 1cm の長柱状の結晶です。

その他

標本は上記の写真のように微細なものですので、接写に適したレンズをご持参ください。

フォッサマグナミュージアムで撮影した接写写真をご希望の方は、USB フラッシュメモリをご持参いただければ、当日、担当者が画像ファイルをお渡しします。

問合先

フォッサマグナミュージアム（糸魚川市教育委員会文化振興課博物館） 担当:小河原 孝彦
〒941-0056 新潟県糸魚川市一ノ宮 1313（美山公園内）

TEL：025-553-1880 FAX：025-553-1881

Mail： museum@city.itoigawa.lg.jp Web： <http://www.city.itoigawa.lg.jp/fmm/>